

# 童

2015年1月30日。

豪雪・雪解け・雨降り・大雪などと、めまぐるしく変わる天気。今は何月なの？と時々複雑に考えてしまうような陽気が続いています。でも、連日子どもたちは雪の世界を満喫しています。クロカン・そり遊び・雪遊び・そして新たにスノーシュー探検と、日毎に子どもたちの顔は黒ずんでいっています。

今のところ、子供たちのこの熱いパワーに押されて、インフルエンザや体調不良も流行せずにいて嬉しい限りで、この間、たっぷり冬遊びを満喫したいと思っています。

子どもたちのそんなエネルギーのお蔭で、青ちゃんも少しずつ、顔のしびれがとれていっている気がしますが、口の中としびれ以外は、ほぼ体調が回復して、子どもたちとスノーシュー探検に出かけたり、休日には、アルパンスキーの指導・ナイフスキーもできる位まで回復することができました。体重は、まだしっかりと食べれないこともあり、7キロ位減っていますが、理想体重なので、このまま維持できたらいいかなと思っています。御心配・ご迷惑お掛けしておりますので、この残る3学期は、子どもたちと楽しんでいきたいと思っています。

朝は、すでに6時頃には明るくなり始め、夕方は、5時を過ぎてもまだ明るく、確実に日は長くなっています。やはり、うれしいですね。



## 【情報漬けの便利と情報なしの不便】 楽と便利

先日の新聞に、10代向けに、お金と人生設計をシミュレーションするためのゲームが続々と登場しているとありました。それを体験した女子大生が、「子どもの教育にとってもお金がかかると知った。」「共働きでないと余裕ある生活ができない」などの感想で盛り上がったとのこと。

「知らぬが仏」という諺がありますが、本来の意味とは違う解釈かも知れませんが、私は、今の時代「知らない方がむしろいい」と思っています。今までの長い人生で、知らないでチャレンジしたこと、知らぬが仏の方が、未来も明るく見えたように感じます。実際は、苦労の連続でしたが、先の不安や老後の人生設計なんて考えずに、がむしゃらに今いいと思ったことにチャレンジし、その時を謳歌してきたように思えます。情報なんて、テレビやラジオ、新聞、そして、体験者を見つけて聞き出すことがほとんどで、ぼんやりした未来像をもっていただけでした。だから、いったん決定したら、そのまま変更なく突き進むしかない不自由もありました。

しかしながら、現代では、生まれてから死ぬ時までのありとあらゆる情報のお蔭で、働くことは苦労の連続・結婚や子育ても苦労の連続・老後の不安や身体の衰え、精神的な寂しさ等、みんな先まで知りえるようになりました。精神的に弱い人は、初めからめげて無気力に、子ども時代から自分の未来に不安を感じ不登校に、就職働く前から、働くことに絶望してニートに、結婚する以前に、結婚に不安を感じ、ましては、出産や育児に苦しみ不安、そして、経済的な不安も感じてしまう。若いうちから、老後を考え、おびえ、女子高生などは自分の事を、もう年だ、もうおばさんなどと呼んでいる姿を見たり。全て、情報のせいで、知らないほうがいいことまで、知り過ぎてしまう弊害があるように感じます。

私達の世代は、知らないから、初めて出くわした大変な世界にも、逃げるわけにもいかなかったし、それら一つ一つと真正面からぶち当たり越えていくしかありませんでした。今から見れば、無知による苦労の連続、でもこうやって一步一步苦労して乗り越えていく中で、厚みのある人間として成熟してきたように感じます。早くから知りすぎると、精神的に弱い人から脱落逃避してしまいますし、それなりに強い人まで、不安になるでしょう。もちろん対策と備えのために、躍起になって頑張る=不安におびえ不安定不幸になっているように感じます。つまり、便利すぎて、逆に心が安定しないような気がします。そして、更に情報と薄っぺらな便利さに振り回されていってしまうのではないのでしょうか。「知らぬが仏」子どもに未来未知への不安ではなく、未来未知への闘志を燃やさせるには、この情報というものを考えていく時代だと思います。

あまりにも知り過ぎている例として、海育ちの父親が、まだ海を実際に見た事のない息子を海に連れて行ってどんな感動を示してくれるかと期待を込めて海へ連れて行った時、子どもは「お父さん、テレビと同じだね、ビールを持ったお姉ちゃんがないね!？」とつぶやいたエピソード。私達も、旅行や旅、遠足や修学旅行や幼稚園の遠足先などにも、今や、事前にネットで調べて、写真映像、見どころ、丸秘スポットなどなど隅々まで調べ上げ、事前に知りすぎることがあります。そして、実際に行くと、それを確認するだけの作業(写真や映像と同じだ!!)。そう言えば、昨年3月末に行ったネパールヒマラヤトレッキング。たぶん夫婦2人で行く計画だったら、事前にいろいろ調べたと思いますが、その時は雄飛が計画し、連れて行ってもらうので、話だけは訊き、映像や写真などはほとんど見ないようにしました。それだけに、一つ一つの土地、景色、ヒマラヤの山々全てが、新鮮、初めての感動だらけでした。

知りすぎること、楽すぎること、便利すぎること。これらと引き換えに、私たちは、人間として、人間の心の喜びで一番大切な「感動」を失ってしまいつつあるような気がします。先のエピソードにあるように、海を初めて見た人の心の動きと、事前に映像や写真で海を見ていた人間のそれを思い描いて下さい。自分たちの体験の中で、一生忘れられない体験や鳥肌が立った体験やエピソード、風景は必ずあるでしょう。一目ぼれもそうでしょうか。

苦しみや苦労や不便の中にこそ、本当の感動が生まれる土壌があると思います。楽と便利を限りなく欲をもって追及すればするほど、結局は、そのせいで感動することがなくなり、薄っぺらで安っぽい中身の無い感動が増えていくのではないのでしょうか。苦しみや不安や苦労を全て金で解決しようとするならば、逆に金があっても、心には空虚感が残るでしょう。そう考えると、人間だけが持っている「欲」のお蔭で、人間は動物に比べて不幸かもしれません。

未来未知への不安を解消して、一抹の安心を得るためにインターネットを開いてしまう自分もいます。そして、便利で安いから、手間暇かけずにできるからと、ネットショッピングに走る自分もいます。こんな自分に、どう折り合いをつけていくか。できるだけ多くの心震える感動を、残りの人生で味わいたいの、しっかりと「知らぬが仏」を意図的に増やしていかなければなりません。

子どもの世界は、やはり「知らぬが仏」「不便と苦労」でしょうか。それは、感動・一生忘れられない感動・心に残るエピソード・心の震え・原体験の喜び・継続的な工夫・乗り越える喜びなどを子ども時代にぜひプレゼントしたいからです。